



アイヌ語で「広場」の意味
文 北原モコットウナシ・瀧口タ美 絵 小笠原小夜

イペアンロー! (いただきます)

人はその土地にあるおいしいものを工夫して調理し、食べてきました。アイヌ料理も同じです。かつては塩や油で調味しましたが、時代が進むにつれ、新しい調味料や調理法を取り入れてきました。今の時代のアイヌ料理って、どんなもの？ おうちでつくれそうな料理は作り方もふくめ、私、ライターの小笠原小夜がしょうかいしていきます。

食事の中心となるのは、オハウ(スープ)です。野菜や海藻、鳥や魚の肉、魚、キノコなど季節ごとのおいしいものや、干して保存した食材を使って、真だくさんのスープにします。道東



カンピル(本) パヨカカムイ ユカラで村をすくったアイヌのはなし

かやのしげる・文 いしくらきんじ・絵

パヨカカムイのパヨカは、「歩き回る」という意味です。カムイはよく「神様」と訳されますが、人間にない力を持つものをそう呼びます。昔、ほうそうや天然痘などの感染症がはやると、村の人々が次々にたおれていきました。そのことをさして、「となりの村までパヨカカムイが来て、病をまきちらしている」、「今度はあの村に行ったようだ」と、うわさをしたのです。

この話はユカラという、長い長い物語を語ることで、パヨカカムイから村を救った男が主人公で、アイヌにとって、ユカラがどのように大切なものかが、えがかれていきます。

男はパヨカカムイを追いはらうのではなく、お供えをして、立ち去るように語りかけ

「チエオハウ」
サケでおいしいスープ

地方では、エゾシカの骨を2日ほどかけてててつくる「ポネオハウ(骨のスープ)」もあります。真だくさんのスープで、体は温まり、おなかもいっぱい。今回は、サケのスープをごしょうかいします。神奈川県鎌倉市の私の家の庭には、ちいさなマカヨ(フキノトウ)がさいっていましたので、それもトッピングしました。

チエオハウ(魚のスープ)

◇材料(4人分) 生サケ4切れ(アラでも、塩サケでもよい)、ダイコン約10g、ニンジン小1本、だし用のコンブ約10gを1枚、水1~1.2ℓ、塩適量、フキノトウ(花のさいたもの)2本

◇作り方

- ①サケは食べやすい大きさに切り、ダイコン、ニンジンは乱切りにする。フキノトウは葉を取り、小口切りにしておく。
- ②なべに水とコンブを入れて火にかけ、ダイコンとニンジンをにる。
- ③野菜がやわらかくなったら、サケを入れる。
- ④サケに火がとおったら、塩で味をととのえ、フキノトウをちらして、できあがり!

具はほかにジャガイモやゴボウ、ハクサイなどを入れてもよい。干したブクサ(ギョウジャニンニク)や長ネギをちらすこともあります。

ました。こわかったけれど、その気持ちに負けずに、落ち着いて行動したのです。

(2000年、小峰書店 1540円)



2010 カナダ バンクーバーオリンピック
巨大トーテムポールをシンボルに300人の先住民族が民族衣装で入場。ロゴマーク、メダルには先住民族の要素を取り入れた

2000 オーストラリア シドニーオリンピック
先住民族とオーストラリアの少女を中心に「民族の融和」を表現



「フムフム」はアイヌ語でのあいづち

みなさん、こんにちは。今月から新しいコーナーを始めます。国内外のさまざまなニュースや話題を、アイヌ民族の見方などを交えながら、私、北原モコットウナシが解説していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

◇
初回はオリンピック・パラリンピックの話題です。

この祭典では、選手たちの競技とともに、開幕セレモニーも大きな目玉の一つです。単にスポーツの大会としてだけでなく、開催する国が持っている世の中についての考え方、歴史や未来に向けての思いを発表する場でもあるからです。

2000年に開催されたシドニー五輪の時の新聞記事を読むと、開幕セレモニーの演出をしたリック・バーチかんとくは「先住民族にこうけんする五輪」という考えに立って、この国の先住民族アボリジニの文化を大きくしょうかいし、ヨーロッパから移住した人々との和解を表現しました。

ほかにも1994年のリレハンメル冬季五輪、2010年のバンクーバー冬季五輪、16年のリオデジャネイロ五輪などで、先住民族の文化がしょうかいされています。

12年のロンドン五輪では、アフリカやアジアなどさまざまな地域から移り住んだ、50以上の言葉を話す人々が参加しました。

ものごとが一つではなく、たくさん・いろいろ

オリンピック・パラリンピック 多様性の大切さ 発信楽しみ



ろあることを「多様性」といいます。言葉や暮らし方のほかにも、宗教や考え方、女性や男性としての生き方にも、多様性があります。各国の開会セレモニーを見てみると、世界全体で多様性を大切にしていこうとしていることが分かりますね。

さて、日本では昨年夏に東京オリンピック

・パラリンピックが開催される予定でした。新型コロナウイルスのえいきょうで延期になりましたが、数年前から会期中にアイヌ民族の文化をしょうかいするために準備をしている人たちがいます。今年開催できるとしたら、どのような形でしょうかいすることになるのでしょうか。楽しみです。

先住民族

世界の多くの国は近代国家と呼ばれています。近代国家は、その地域に暮らしてきた民族が作った国です。いくつかの民族が一緒に国を作ることもありました。

「先住民族」とは、近代国家ができる時に望まない形で国家に取りこまれた人々のこと。そのために自分たちの町に暮らすこと、自分たちの生活、言葉、習慣で生きることができなくなっていることもあります。

これは人権の侵害に当たるとして、先住民族をこのような暮らしに追いこんだ歴史の見直しが進んでいます。日本では、アイヌ施策推進法という法律が2019年にでき、アイヌは先住民族にあたることや差別的禁止が明記されました。

文化を伝える

文化は、本能(人が生まれつき自然にする呼吸、すいみん、食事など)以外の行動(考え方などの全て)です。ものを食べることは本能で、手やスプーン、はしで食べる「食べ方」は文化です。ですから1日のすごし方が全て文化だと言えますし、それは少しずつ変わっていきます。

ただ、外国の人などに自分の文化をしょうかいする時には、料理や文学、音楽や美術、歴史を感じるものが一般的。和民族文化なら着物、三味線、すしなど特別なものが多いですね。

五輪でアイヌ民族のしょうかいを目指している人たちは、アイヌ民族の歌やおどり、着物などをひろうようです。実現すれば、海外だけでなく日本国内の人たちを知ってもらう機会にもなります。